

審 議 (会 議) 結 果

審議(会議)経過	<p>開会</p> <p>あいさつ</p> <p>会長・副会長の選出 神奈川県造血幹細胞移植推進協議会設置要綱第3条第4項に基づき、委員の互選により、会長に後藤委員、副会長に村上委員が、それぞれ選出された。</p> <p>(事務局) 本協議会は、附属機関等の設置及び会議公開等運営に関する要綱に基づき公開となっているが、傍聴の希望はなかったため傍聴人はいない。また、発言者氏名と発言内容の要約を議事録として公開することをご承知おき願いたい。</p> <p>(後藤会長) 報告(1)骨髄バンク・さい帯血バンクの状況について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>報告(1)骨髄バンク・さい帯血バンクの状況 ＜資料1に基づき、事務局から説明＞</p> <p>(後藤会長) 事務局からの説明によると、人口に対する神奈川県ドナー登録者数は全国平均で比較的少ない方ではあるが、その理由としては、おそらく東京など勤務先で登録される方が多いからであろうということだった。実際の採取件数はおそらく正確な数字を反映していて、神奈川県の採取協力施設の採取件数は全国的にも多く、実際に提供している方も多いため、神奈川県の方々が骨髄移植に対して後ろ向きということでは決していない。むしろ最近は集団登録会などで、若い大学生等がかなり多く登録してくださっており、コロナ禍であるにも関わらず、登録者の数が増えているという状況を紹介していただいた。</p> <p>ただいまの説明に対して意見や質問があればご発言いただきたい。</p> <p>(村上副会長) 神奈川県では、神奈川県赤十字血液センター、ライオンズクラブと県と我々の会で四者会議を行い、計画等について協議している。特にライオンズクラブは、今まで単独で献血を実施していたが、骨髄ドナー登録</p>
----------	---

を一緒に行うことができると四者会議で話したことで、協力していただくことができた。ライオンズクラブ、神奈川県赤十字血液センターの協力により、先ほど事務局より説明があったように、大学献血が増え、結果として若年層のドナー登録者も増えているのが現状である。

(鬼塚委員)

数年前まで、私どもは厚生労働省の移植推進拠点病院事業を行っていた。その際にも神奈川県でのドナー登録をどのように進めるかをだいぶ議論した。今現在は国立がんセンターを中心にして、東海大学医学部付属病院、神奈川県立がんセンターは地域拠点病院という形で行っているが、確かに、大学での学園祭等のタイミングでリクルートできるかという話を、拠点病院事業を行っている時も話し合っていた。

もう1点、例えば従業員の多い企業もあるため、ご協力いただける企業には新入社員の研修にドナー登録会を組み込めないかディスカッションをしたことがある。学生は卒業して地元に戻ってしまうと、結局登録はできるがその後の提供につながらないこともあるため、神奈川県下の企業に働きかけてもよいと考える。

(後藤会長)

鬼塚委員のおっしゃるとおり、企業への働きかけが一つ、県内でドナー登録者を増やす柱になると考える。また、一つはボランティア休暇がどれくらいの企業で普及しているかも重要なファクターであると考えますが、新委員、何か情報があればご紹介いただきたい。

(新委員)

ボランティア休暇については、企業の大小いろいろとあるが、全体としては芳しくない状況と考えている。特に、ドナー登録のように社会貢献、ボランティアに分類されるようなものは、個人の有給休暇を、冠婚葬祭等で使用し、残ったものを積み立て、いざというときには使える、という形でやっているところが多い。残念ながら、そもそも有給休暇そのものが日本では決して使われる風潮にはないということもあり、親族にひっ迫したものがなければどうしても二の次三の次になってしまっていると考えている。今回委員の話をいただき、大小問わず各企業にボランティア休暇の状況を聞いた。日本骨髄バンクのホームページに掲載されている企業も含めて導入例もあるが、掲載されていても使用の実例がほとんどないという企業があり、越えなければならないハードルがあると考えている。また、企業として体制を整えても最終的には個人の判断に委ねられているため、そこの啓発まで手を出せていない、踏み込めていない状況もあると考えている。

(後藤会長)

決してマンパワーがどこも充足しているわけではないため、日本の風土の中では、中小の企業になればなるほど、休みを取るのはなかなか勇気がいるという事情があると思う。

おそらく東海大学医学部附属病院や神奈川県立がんセンターのような採取施設でも、金曜日に入院して土日を挟んで退院など、工夫をされていると思うので、協力し合いながらできるだけ多くの方がこういった事業に参加できるようになればよいと考える。

本協議会自体が、昨年度も一昨年度もコロナ禍ということもあり休止していたため、今回を出発点として、県内各所の周知もそれぞれの立場でお願いしたい。

(新委員)

もう1件こういう話もあるということで聞き及びいただきたい。労働組合の立場のため、資金、バックアップという意味で触れておきたい。先ほど、休みのことはなかなか厳しいという話、また、個人のアンテナを張る感度によってだいぶ違うという話をした。労働組合の活動を支える財源には余地があると思うが、このようなバックアップは極めて労働組合の不得意な分野に属している。労働組合が集団を対象として、いろいろな取り組みをして救済をしていく方向はかなり乗りやすいが、難病を含め、個人を救済する仕組みは乗りにくい。例えばカンパをとるときにどうやるか、結構議論もでており、お金の使い方として、ターゲットが小さくなると、お金があっても拠出しにくいという側面があるということ、議論の点とはかけ離れたところにあるかもしれないが、申し上げておきたい。

(後藤会長)

状況をお互いが知ることで理解が深まるため、貴重な情報をいただけてありがたい。

(後藤会長)

続いて報告(2)「令和4年度神奈川県造血幹細胞移植推進事業について」、および議題(1)「骨髄ドナー登録者の増加に向けて」、事務局から説明をお願いします。

報告(2)令和4年度神奈川県造血幹細胞移植推進事業について

<資料2に基づき、事務局から説明>

議題(1)骨髄ドナー登録者の増加に向けて

<資料3に基づき、事務局から説明>

(後藤会長)

資料3参考資料を拝見しても、献血車が来る献血の機会にドナー登録

をしてくださる方が多い印象を受ける。コロナ禍にあってなかなか献血そのものもドナーが集まらないという状況は聞いているが、最近少し社会や人が動き始めて、何か風向きが変わったのか、中山委員より現在の状況をご紹介いただきたい。

(中山委員)

3年前コロナ禍になり、各企業はリモート勤務が主になり、非常に献血者が減る状況がございました。今は企業献血も少しずつ戻ってきているが、リモート勤務が定着しており、過去と比較して、一企業に対する献血者の数は減っている状況がある。登録会は立地面等いろいろ企業側の事情もあり、できるところは我々も協力しているが、できないところも存在するのが現実である。大学献血も少しずつ復活してきている。

今後、新型コロナウイルス感染症が2類から5類になるというように状況が変われば、こちらの状況も変わると考えている。昨年8月の第7波、11月の第8波では国からの活動自粛要請はなかったが、それぞれ献血者が減った状況があった。第8波の11月になってから、相当数献血者が減ったということもあり、年末は血液の在庫が非常にひっ迫した状況が続いた。今のところは若干安定してきたところではあるが、まだ予断を許さない状況である。やはり献血者のようなボランティアをやるという気持ちのある人に呼び掛けるのは、骨髄ドナー登録者の確保に対しては非常に良いことだと考えるため、我々もできるだけそういった現場を確保できるように努力していきたい。

(後藤会長)

骨髄ドナーを増やすのはもちろん大切だが、献血者の増加というののも、私たち医療者にとってはさらにその手前にある喫緊の課題と考えるため、引き続きご協力いただきたい。

資料3参考資料に関連して、こども医療センターで年に2回献血車に来ていただき、献血していただいているが、その中でも5人10人という方がドナー登録までしてくださっていることが今回の資料で分かり、献血車の力は非常に大きいと考えている。それぞれの所属の場所で献血に協力できることがあれば、皆様にもぜひご協力いただきたい。

続いて骨髄バンクの状況を渡邊委員に伺いたい。

(渡邊委員)

コロナ禍においても自治体、日本赤十字社、ボランティア団体の皆様、ドクターの皆様にドナー登録に大変なご協力をいただき、お礼申し上げます。

先日ホームページで発表したが、2022年暦年のドナー登録者数は34,021名であった。年度と暦年の数字は大体イコールになるが、コロナ前の水準からかなり落ちた時期もあった。2020年度、21年度と大変苦

戦した時期もあったが、皆様のご協力により、年間 34,000 人という数字となり、コロナ禍前の実力に戻って来たのではないかと感じている。

移植件数に関しては、22 年の暦年が今のところ速報値 1,062 件。最盛期が 1,200 件を超えていたことを考えるとかなり減っている現状である。新型コロナウイルス感染症での制約が非常に大きい中で、医療現場、ドナーに無理を強いることはできないと考えているため、その点については我々も努力し、危険を回避しながら移植の件数が増えていけば、患者様の生きるチャンスにつながると改めて感じている。累計の移植数は 12 月末の数字で 27,283 件ということで、3 万件の大台を目指して、骨髄バンク職員一同、コロナ禍でも基本的には神田錦町のオフィスで日々仕事をしている。ただ、今、非常にマンパワーが少なくなっており、ドナー登録会等々で皆様にご面倒をおかけしている状況であり、この場を借りてお詫び申し上げる。東京で 60 人強、全国で 80 人強の小さな組織のため、ボランティアの皆様、日本赤十字社の皆様、ドクターの皆様にご面倒をおかけする機会も多々あると思うが、ご容赦いただきたい。

(後藤会長)

ここまで議事を進めてきたが、全体を通して意見はあるか。また、事務局から何か他に審議事項はあるか。

(事務局)

事務局からは、審議事項は他にはない。

(後藤会長)

本日、令和 4 年度第 1 回の協議会を開催させていただいた。前回の協議会から通して、特に、県内の大学でのドナー登録会が広まっており、コロナ禍においても、着実に若年層の登録者が増えている状況があることを紹介させていただいた。一方で、骨髄の提供にまでつなげるためには、就労者のドナー登録を増やす試みも必要だと鬼塚委員よりご発言いただいた。それに対する問題点があると新委員からご紹介いただいた。その後の報告事項でもあったが、骨髄ドナー支援事業があること等の周知も今後進めなければならないということは、私自身感じたところである。

現状を基礎データとして委員間で共有するというのが今回の目的と考えるため、これを元にして、新型コロナウイルス感染症が落ち着くのか落ち着かないのか不明ではあるが、with コロナということで私たちの生活も慣れてきたところもあるため、この状況下でドナー登録を増やすような努力を今後進めていければと思っている。

(事務局)

本日いただいたご意見等を踏まえて、造血幹細胞移植の推進に一層努

	<p>めていきたい。引き続き、お力添えをお願いしたい。</p> <p>閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>資料1 骨髄バンク・さい帯血バンクの状況</p> <p>資料2 令和4年度神奈川県造血幹細胞移植推進事業について</p> <p>資料3 骨髄ドナー登録者の増加に向けて</p>